

3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定
 - (3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所
 - (4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由
 - (5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
-

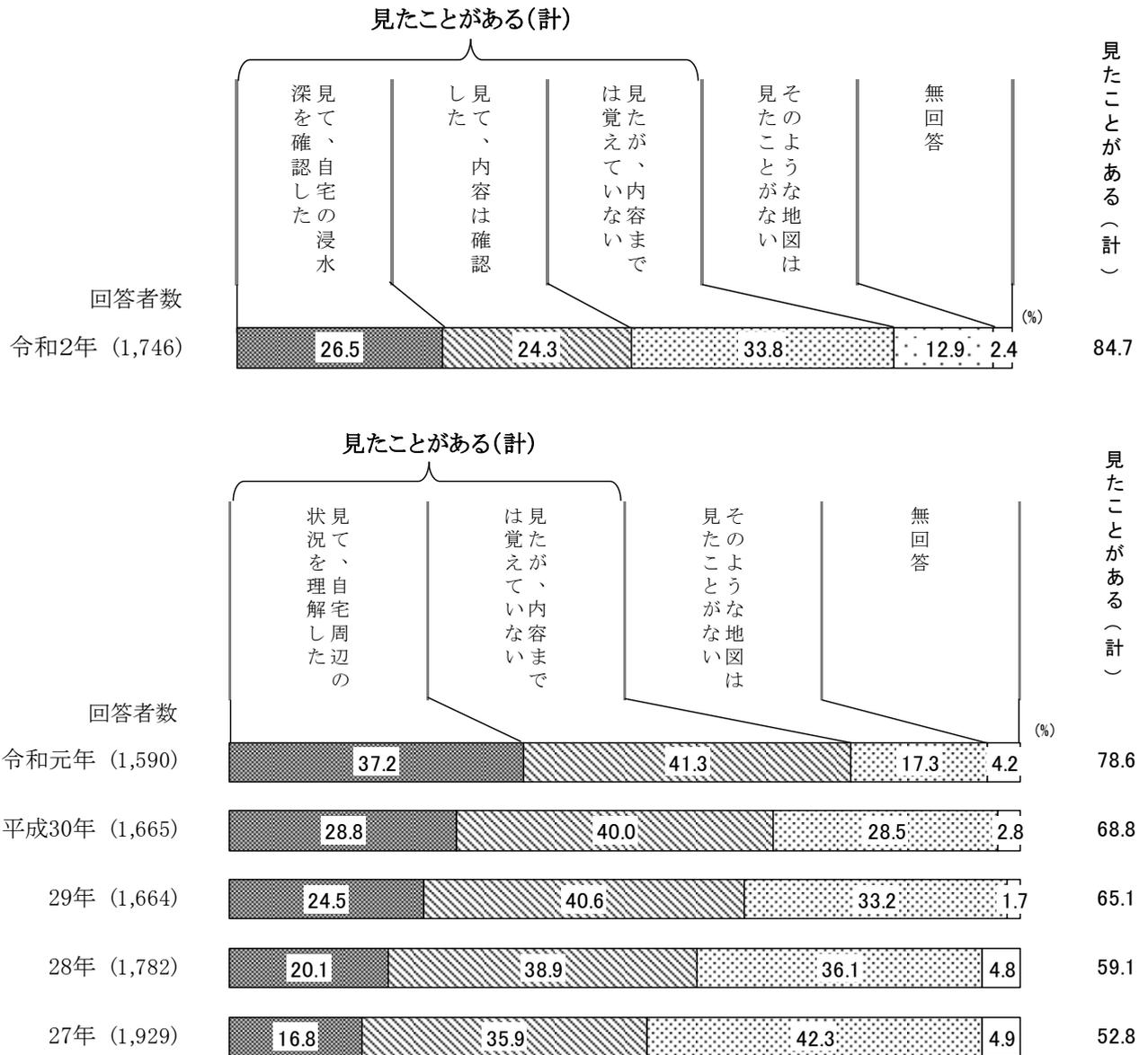
3 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■【見たことがある】は8割台半ばとなり、5年続けて確実に上昇

問11 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 経年比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※ 今回の令和2年度から、前年までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」が、「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」に2分割された。
 ※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

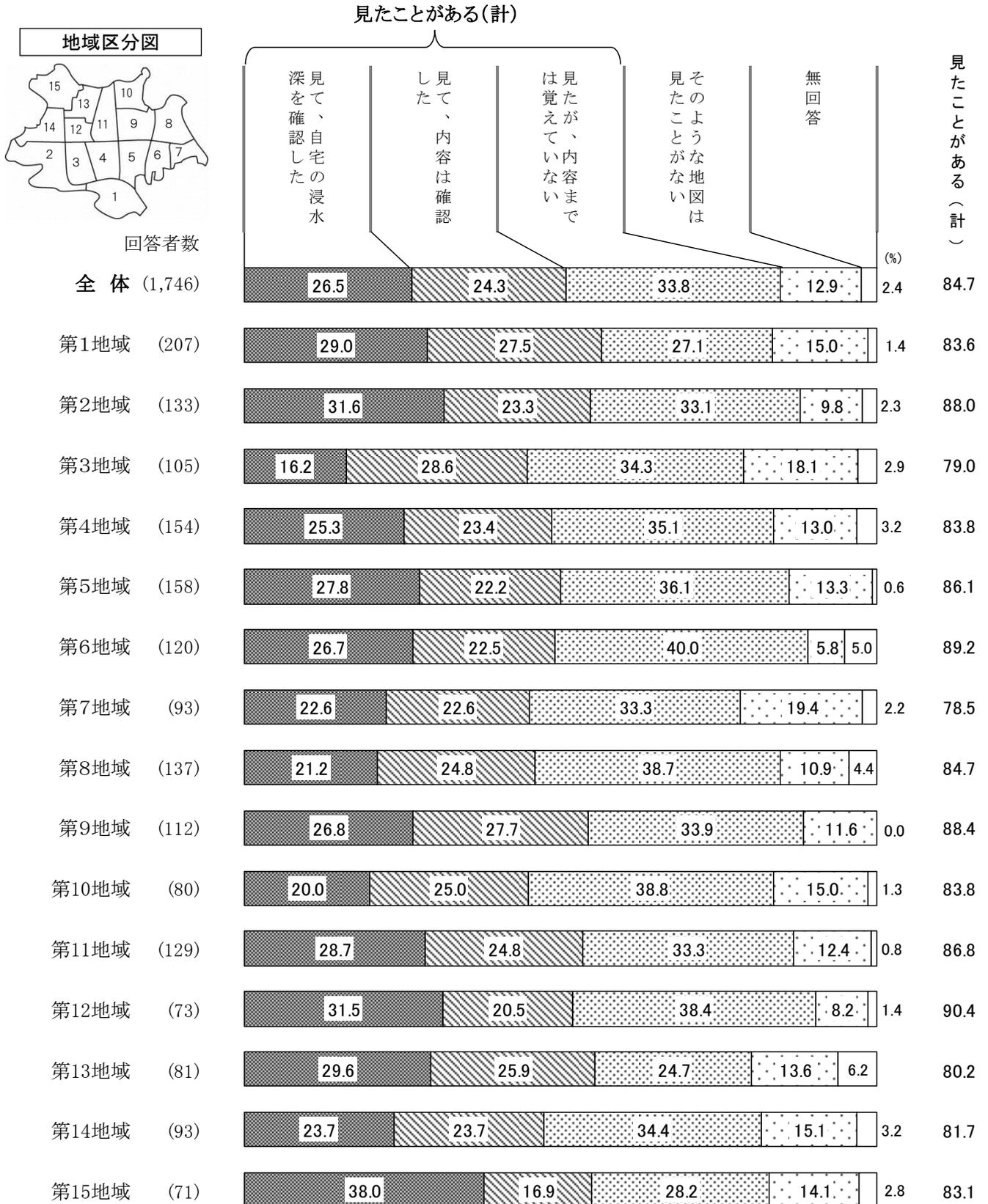
〈第3章 調査結果の分析〈洪水対策〉〉

『足立区洪水ハザードマップ』で「見て、自宅の浸水深を確認した」が26.5%で、これに「見て、内容は確認した」の24.3%を合わせた、前回令和元年調査までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」に相当する割合は50.8%と5割を超えている。これらに「見たが、内容までは覚えていない」(33.8%)を合わせた【見たことがある】は84.7%と8割台半ばを占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は12.9%となっている。

経年でみると、今回は選択肢の細分化などあり単純な比較はできないが、今回の「見て、自宅の浸水深を確認した」(26.5%)と「見て、内容は確認した」(24.3%)を合わせた、前回令和元年調査までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」に相当する割合は、前回の37.2%から今回50.8%と13.6ポイント増加しており、これらに「見たが、内容までは覚えていない」を合わせた【見たことがある】は、平成27年の52.8%から年々増加しており、令和2年の今回は、前回(78.6%)より6.1ポイント増加して、84.7%となっている。

地域別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は第15地域で38.0%と最も高く、第3地域で16.2%と低い。一方、【見たことがある】は第12地域で90.4%と最も高く、次いで第2地域、第6地域、第9地域が9割弱で高くなっている。

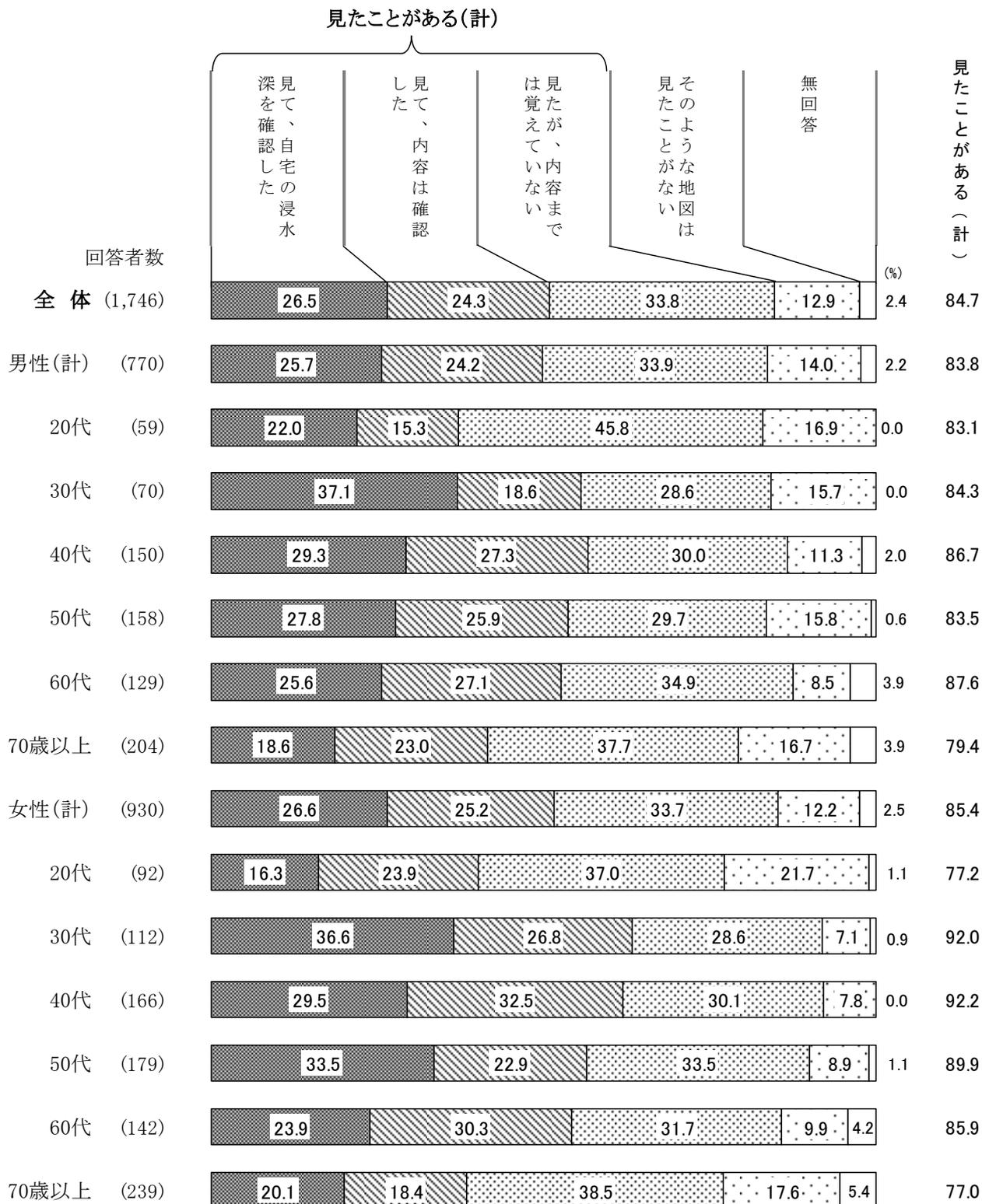
図3-1-2 地域別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



性別でみると、回答分布に大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は男女の30代と女性の50代で3割台半ば以上と高く、【見たことがある】は女性の30代と40代で9割を超えて高く、女性の20代と男女の70歳以上で8割に届かず低くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

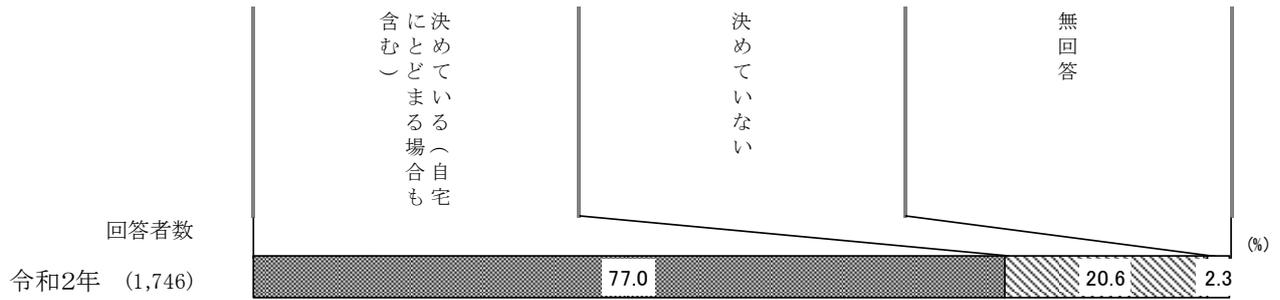


(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定

■「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が8割弱を占めて多数

問12 あなたは、河川がはん濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか
(○は1つだけ)。

図3-2-1 河川はん濫時の避難場所の事前決定

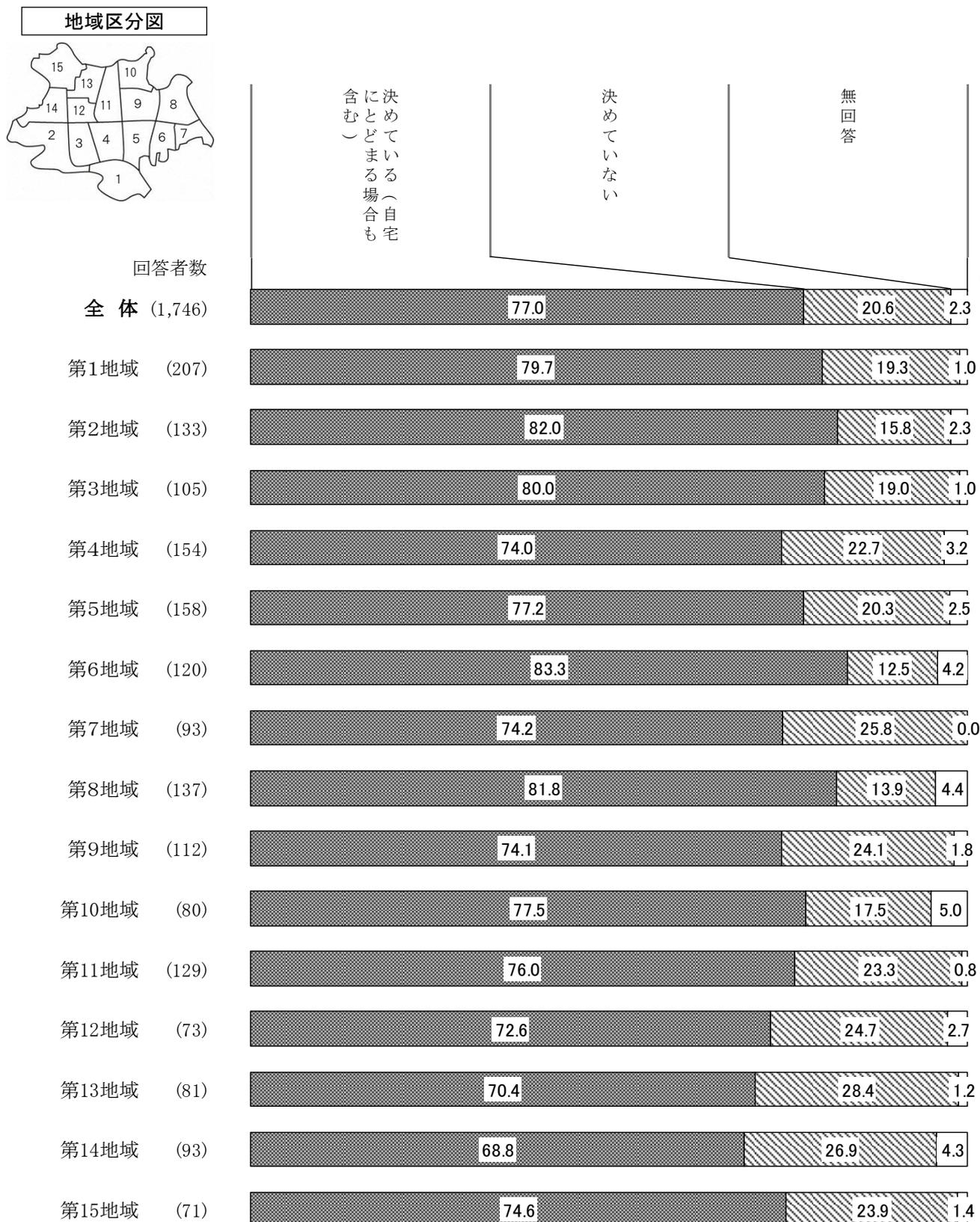


今回の令和2年調査から新設された、河川はん濫の恐れがある場合の避難する場所の事前決定有無は、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が77.0%と8割弱を占めて多く、2割強にとどまる「決めていない」（20.6%）を大きく上回っている。

〈第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉〉

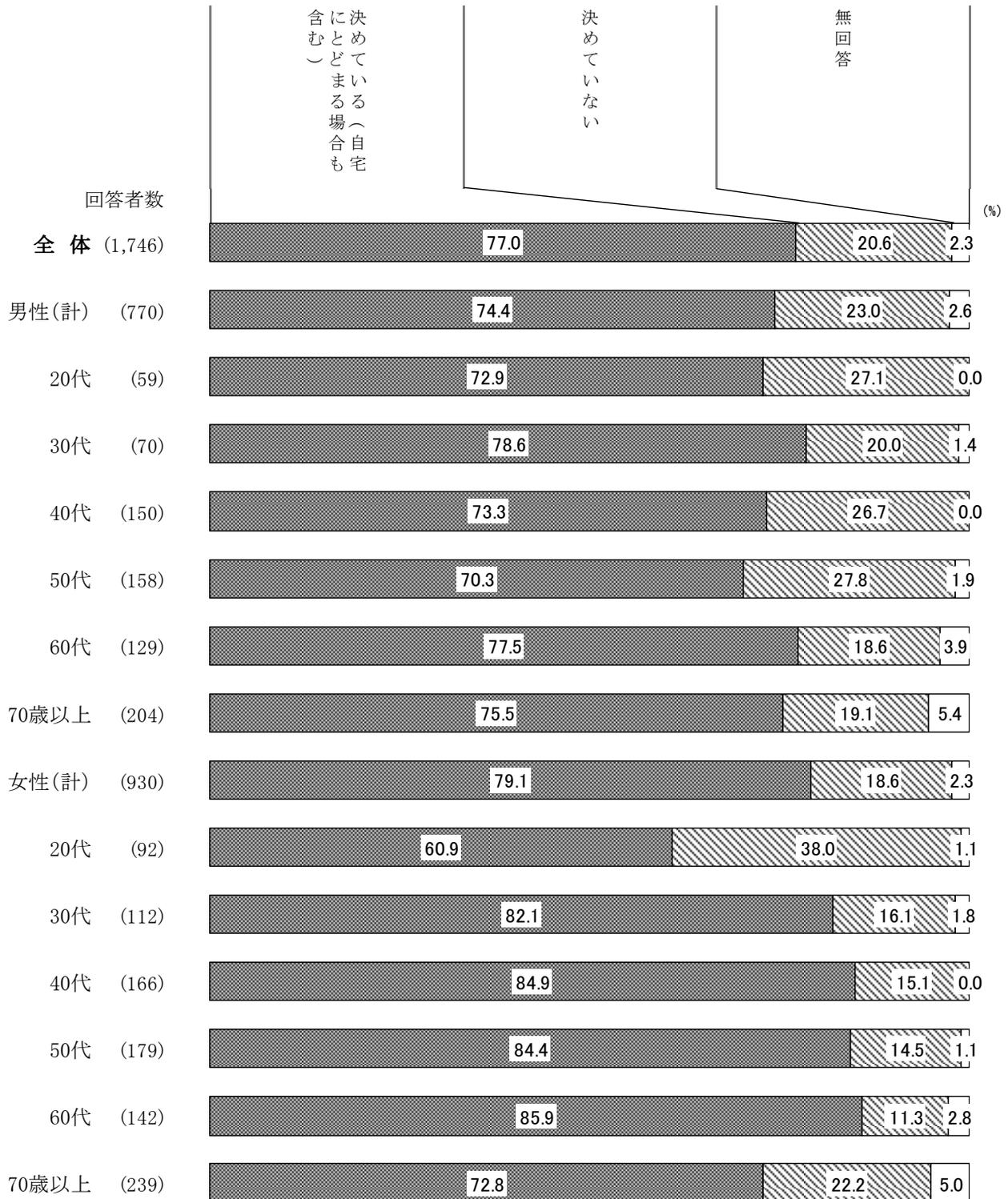
地域別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は第6地域が83.3%と最も高く、第2地域（82.0%）、第3地域（80.0%）、第8地域（81.8%）の3地域も8割を超えてやや高いが、第14地域（68.8%）と第13地域（70.4%）では7割前後と低くなっている。

図3-2-2 地域別／河川はん濫時の避難場所の事前決定



性別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は、女性の方が4.7ポイント高い。
 性・年代別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は女性の20代（60.9％）で最も低いのを除くと、男女ともに目立った大きな違いはみられない。

図3-2-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所の事前決定

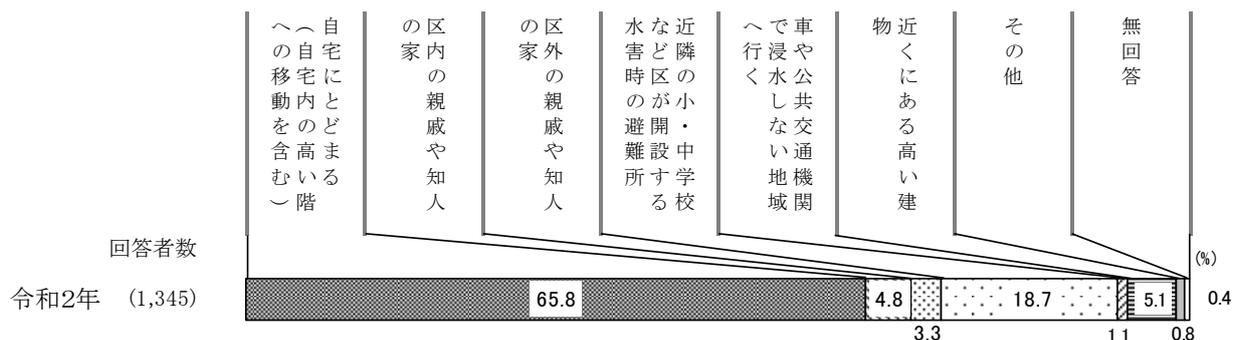


(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所

■「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割台半ばで最多

問12で「1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）」とお答えの方に
 問12-1 あなたが、避難する場所はどこですか（○は1つだけ）。

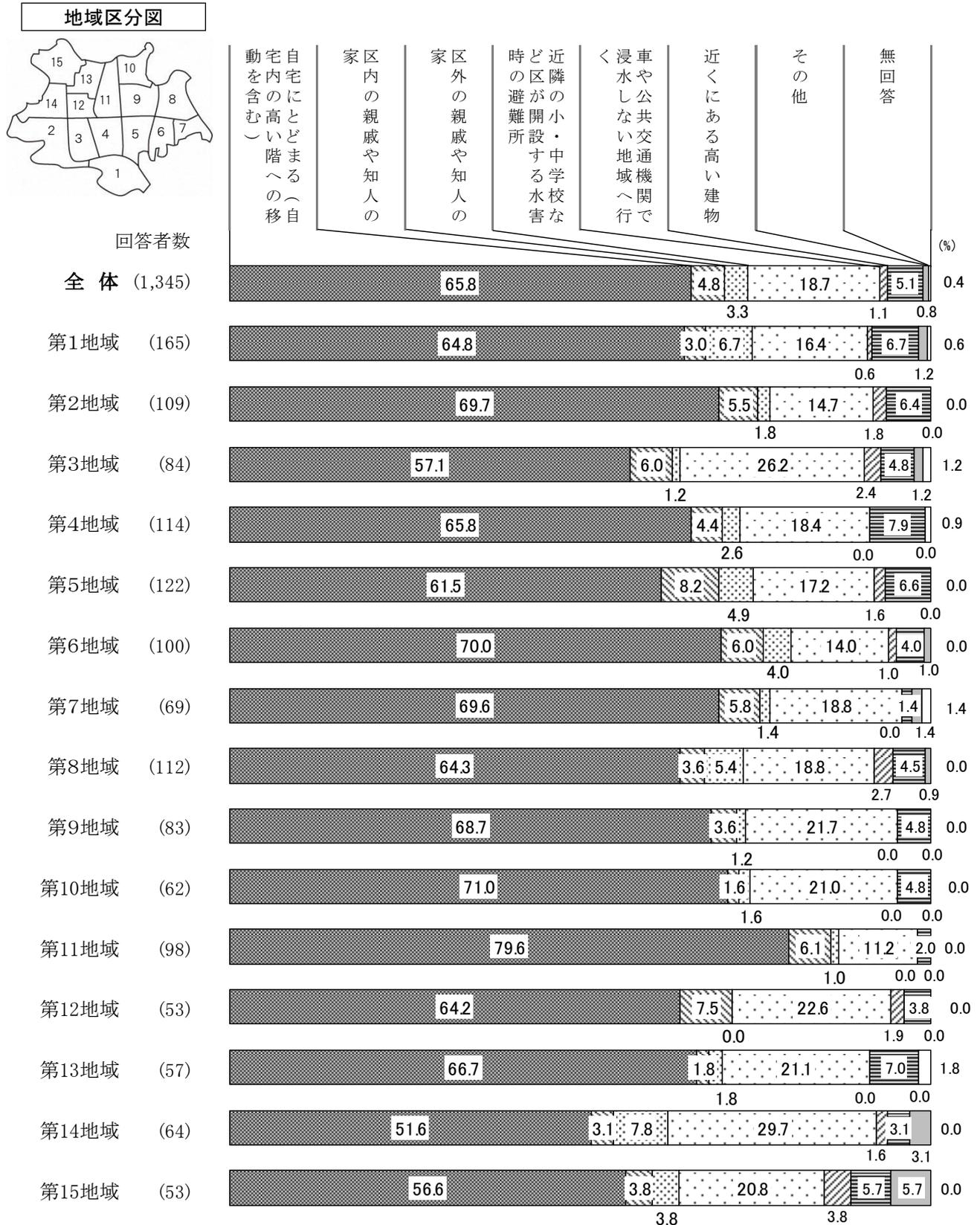
図3-3-1 事前に決めている河川はん濫時の避難場所



河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」と回答した人に、事前に決めている避難場所を聞いた結果（単数回答）は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が65.8%と6割台半ばを占めて最も多く、これに「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」（18.7%）が2割弱で続くが、3位以下の「近くにある高い建物」（5.1%）、「区内の親戚や知人の家」（4.8%）、「区外の親戚や知人の家」（3.3%）などはいずれも1割未満となっている。

地域別にみると、「自宅にとどまる」は第11地域で79.6%とほぼ8割で最も高い一方で、第14地域で51.6%と5割強で最も低くなっており、第15地域（56.6%）や第3地域（57.1%）でも5割台で低めとなっており、これら「自宅にとどまる」が低めの地域では「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難場所」が総じて高めとなっている傾向がみられる。

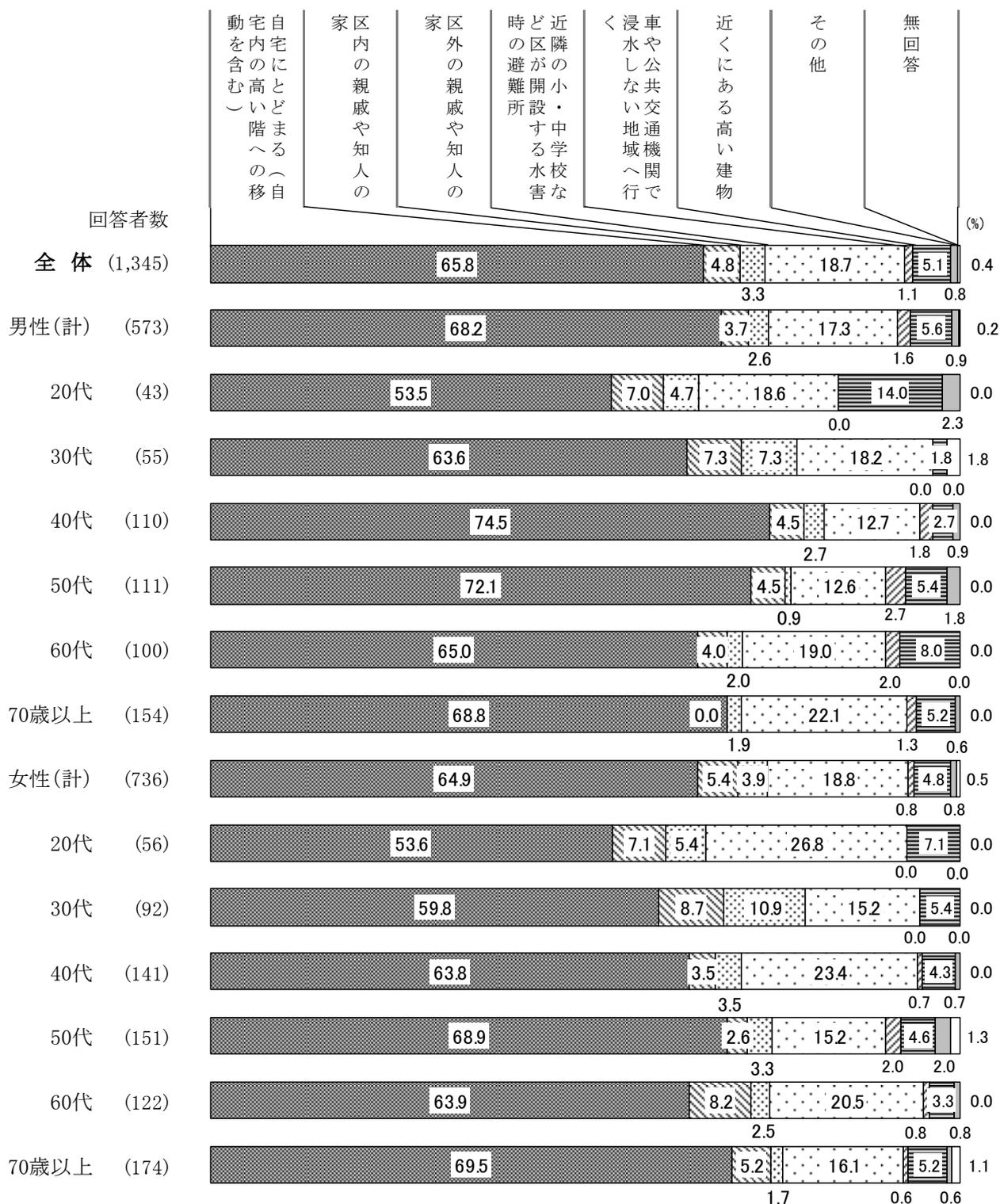
図3-3-2 地域別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



性別にみると、「自宅にとどまる」で男性の方が3.3ポイント高いのを除くと、男女の回答分布に目立った大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「自宅にとどまる」は男性の40代（74.5%）と50代（72.1%）で高い一方、男女の20代でともに5割前半で低くなっている。なお、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難場所」は女性の20代（26.8%）で最も高く、「近くにある高い建物」は男性の20代（14.0%）で最も高い。

図3-3-3 性別、性・年代別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



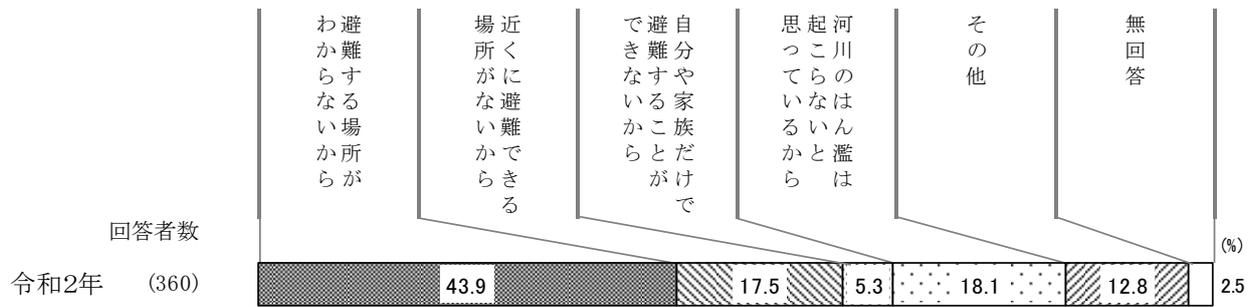
(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

■「避難する場所がわからないから」が4割台半ばで最多

問12で「2 決めていない」とお答えの方に

問12-2 避難する場所を決めていない理由はなんですか (〇は1つだけ)。

図3-4-1 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

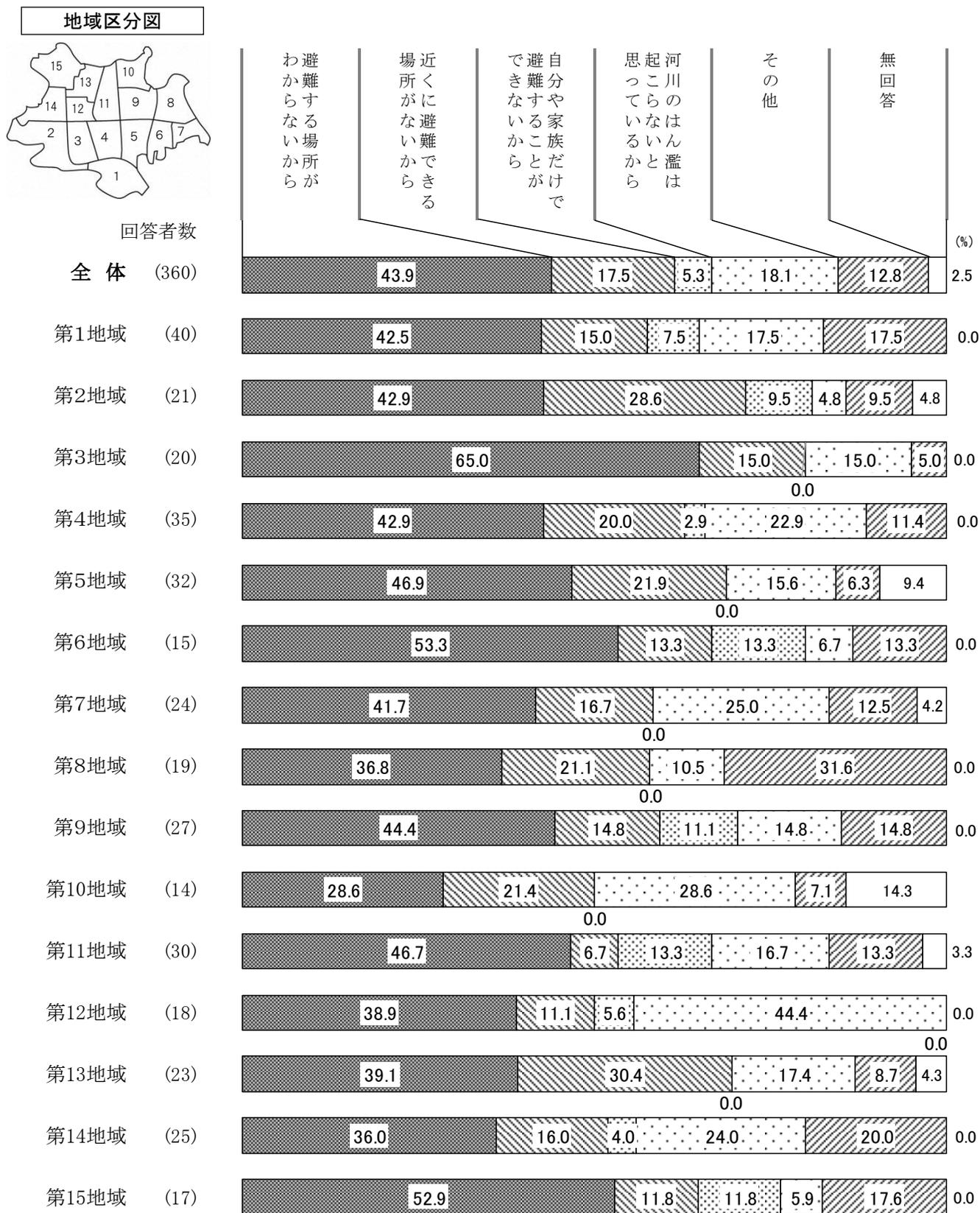


河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めていない」と回答した人に、事前に決めていない理由を単数回答で聞いた結果は、「避難する場所がわからないから」が43.9%と4割台半ばを占めて最も多く、これに「河川のはん濫は起こらないと思っているから」(18.1%)と「近くに避難できる場所がないから」(17.5%)の2項目がともに2割弱の僅差で並んで上位となっている。

〈第3章 調査結果の分析〈洪水対策〉〉

地域別にみると、サンプル数の少ない点に留意する必要があるが、「避難する場所がわからないから」は第3地域で6割台半ばと高く、第10地域で3割弱と低い。また、「近くに避難できる場所がないから」は第13地域と第2地域で3割前後と高く、「河川のはん濫は起こらないと思っているから」は第12地域で4割台半ばと高い。

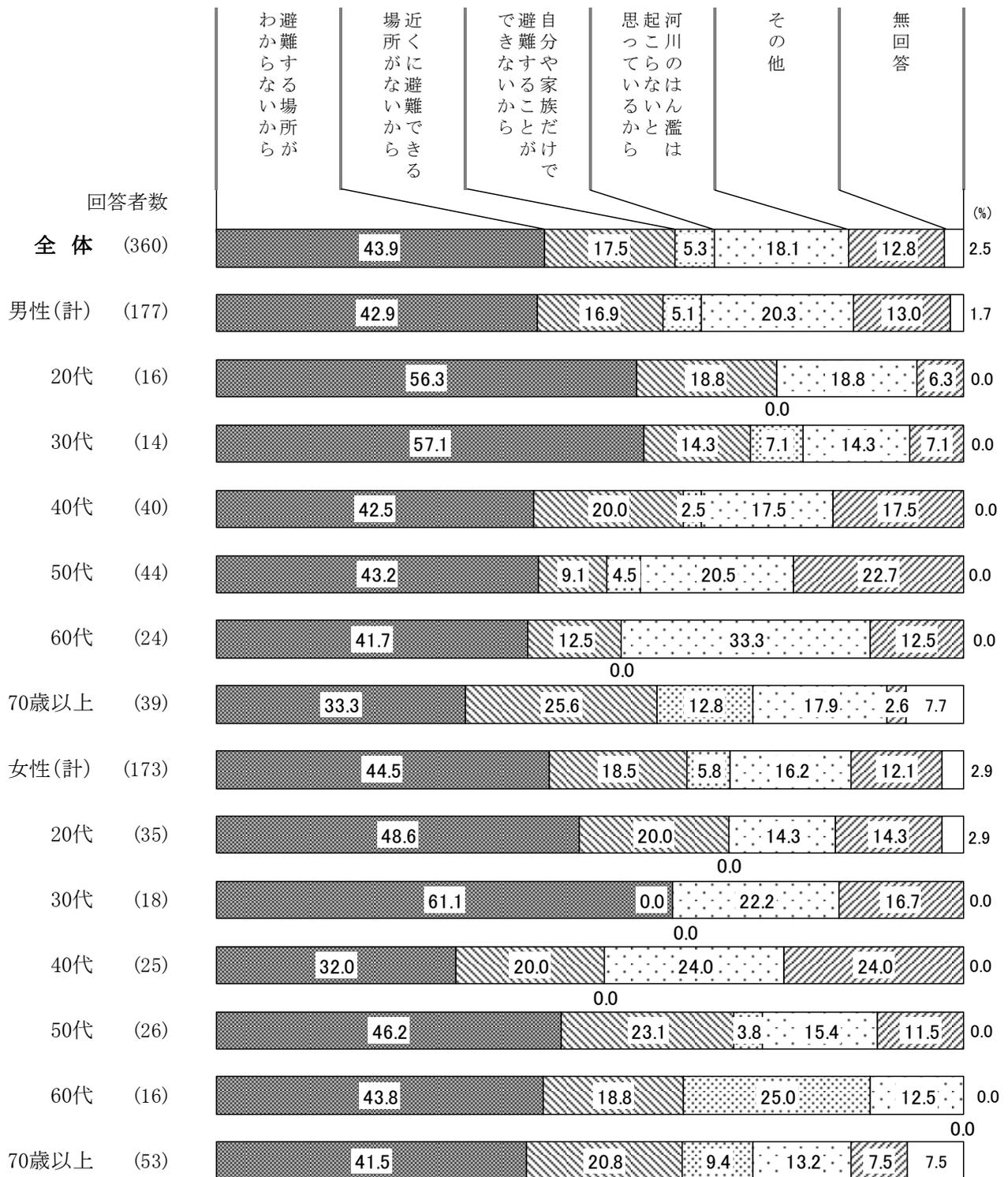
図3-4-2 地域別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



性別にみると、男女別の回答分布に目立った大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、サンプル数の少ない点に留意する必要があるが、「避難する場所がわからないから」は女性の30代で6割強と高く、男性の70歳以上と女性の40代で3割強と低い。一方「河川のはん濫は起こらないと思っているから」は男性の60代で3割前半と高い。

図3-4-3 性別、性・年齢別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

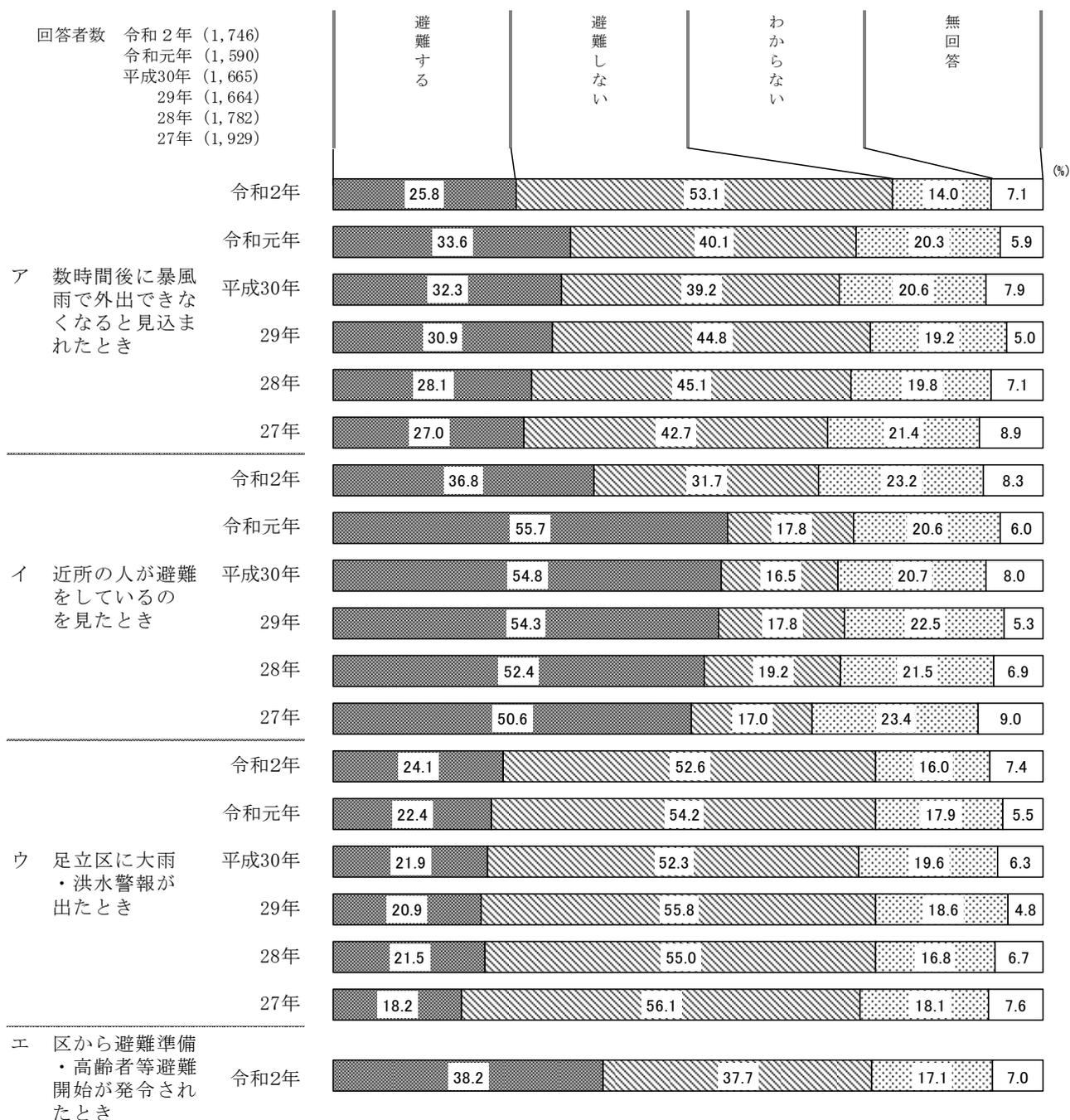


(5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■「避難する」は〈区から避難勧告・指示が発令〉と〈自宅付近が浸水〉が6割台で高い

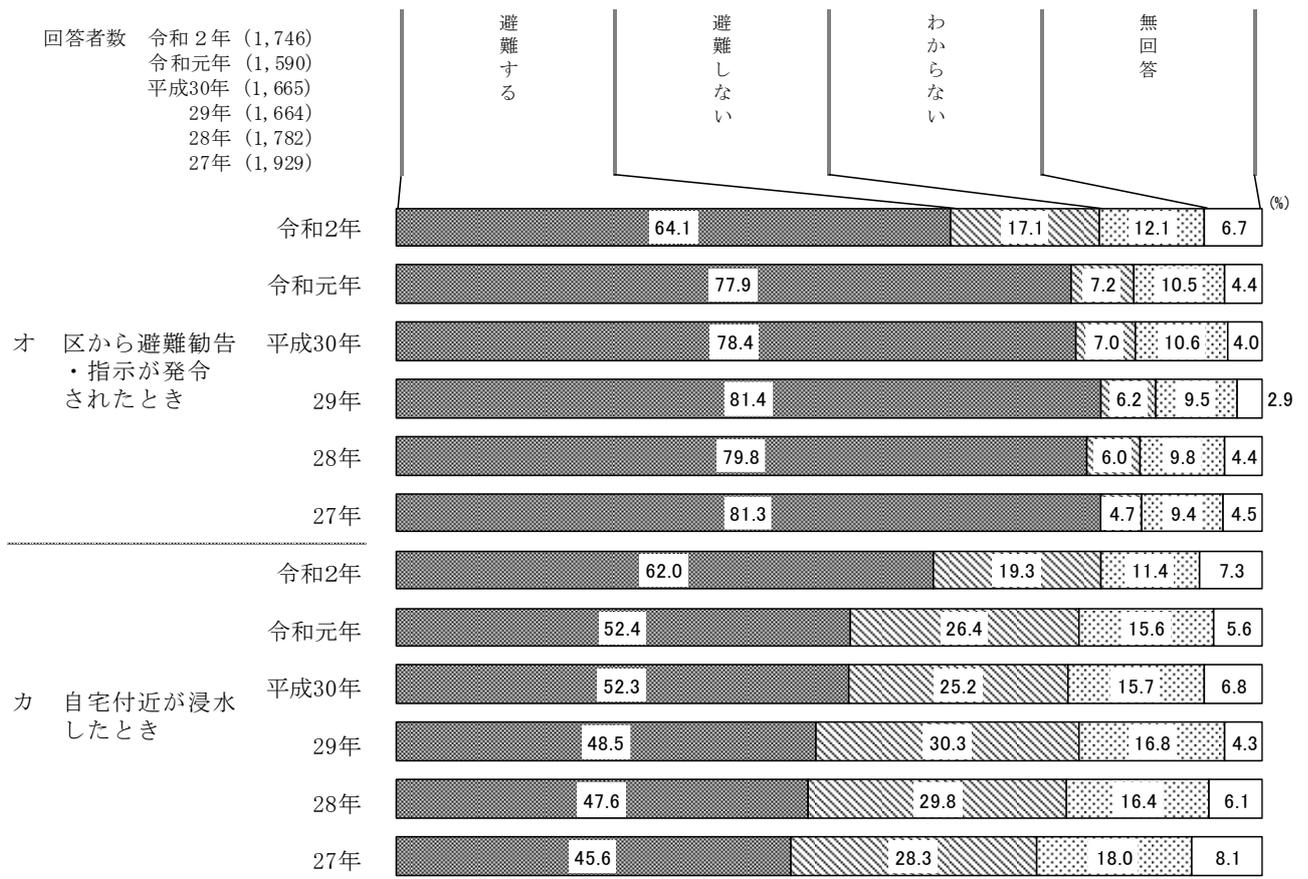
問13 河川がはん濫して、浸水被害になるような大洪水が迫っている場合、以下のア～カまでの情報を知ったとき、あなたは避難しますか（自宅内の高い場所への移動も含む）
 (○はそれぞれ1つずつ)。

図3-5-1-① 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



※「エ 区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき」は、今回の令和2年度からの新設項目。

図3-5-1-② 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



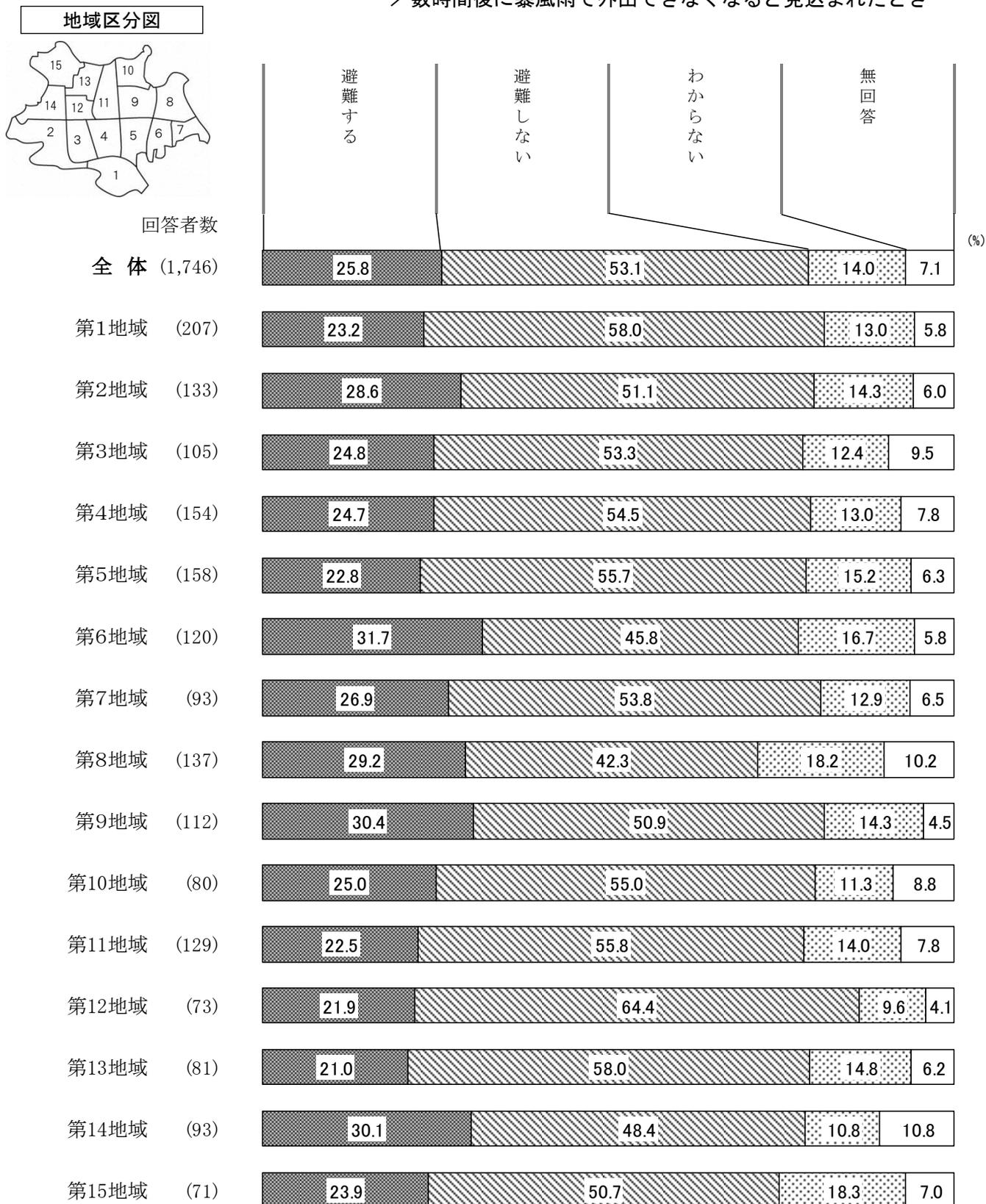
河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかをア～カの6項目について質問した。

「避難する」の割合が多い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が64.1%と6割台半ばで最も高く、これに〈自宅付近が浸水したとき〉(62.0%)が僅差の6割強で続き、以下、新設の〈区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき〉(38.2%)と〈近所の人が避難しているのを見たとき〉(36.8%)がともに3割台後半で並んで続いている。

経年でみると、「避難する」と回答した人の割合は、〈自宅付近が浸水したとき〉(9.6ポイント増)が前回より増加した一方で、最上位の〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉(13.8ポイント減)と4番目の〈近所の人が避難しているのを見たとき〉(18.9ポイント減)の2項目は前回より大きく減少しており、項目「エ」を新設され項目順も入れ替えた今回令和2年の結果は、前回令和元年までの過去5年間の結果とは異なる回答傾向となっている。

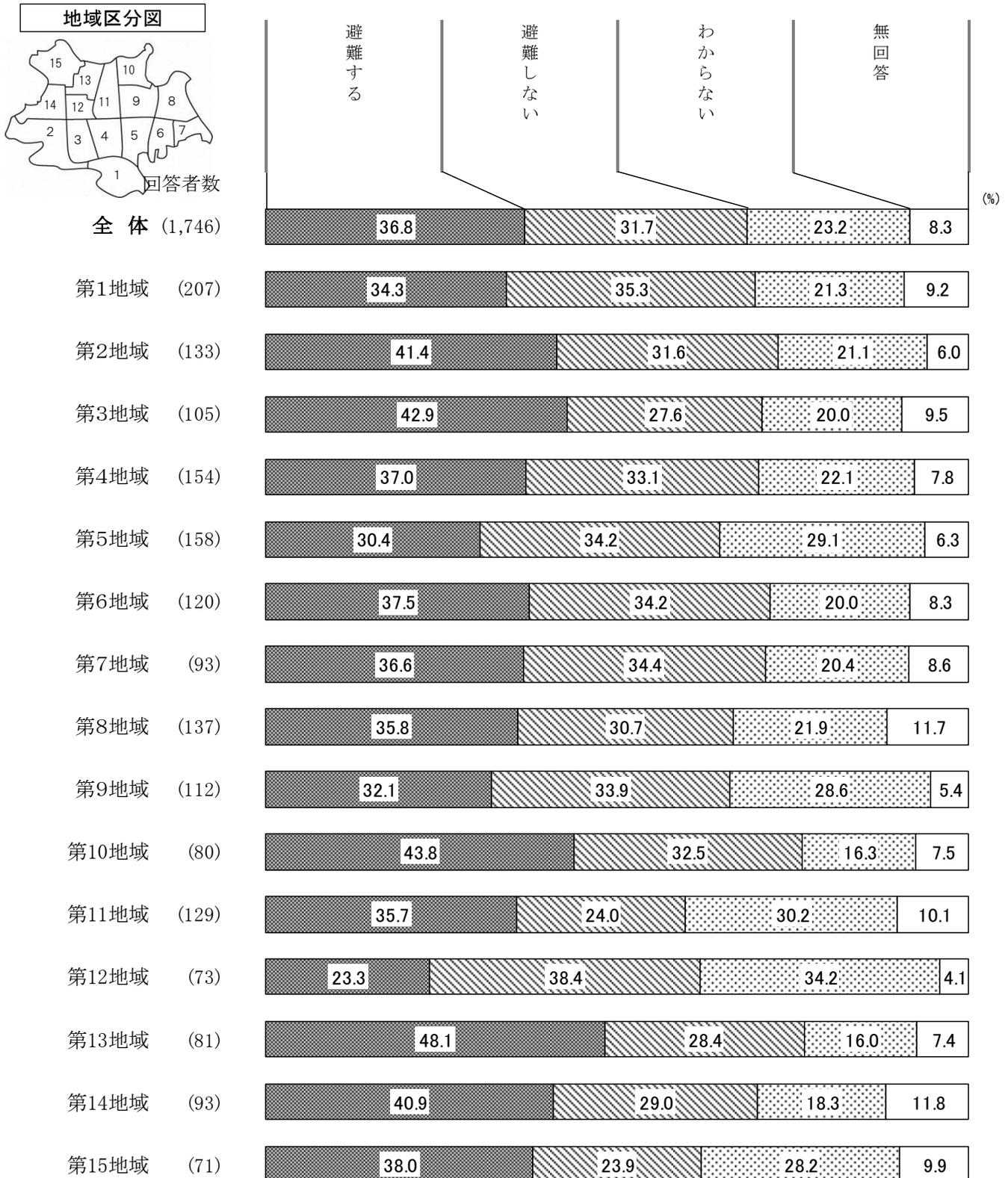
〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉について、地域別でみると、「避難しない」が第12地域で6割台半ばと最も高く、これに第1地域と第13地域がともに6割弱で続き、他の地域より高くなっている。

図3-5-2-① 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈近所の人が避難しているのを見たとき〉について、地域別で見ると、「避難する」は第13地域が5割弱と最も高く、第10地域と第3地域も他の地域より高くなっている。一方、「避難しない」は第12地域が4割弱と最も高く、第1地域、第5地域、第6地域、第7地域、第9地域でもそれぞれ3割台半ばとやや高めとなっている。

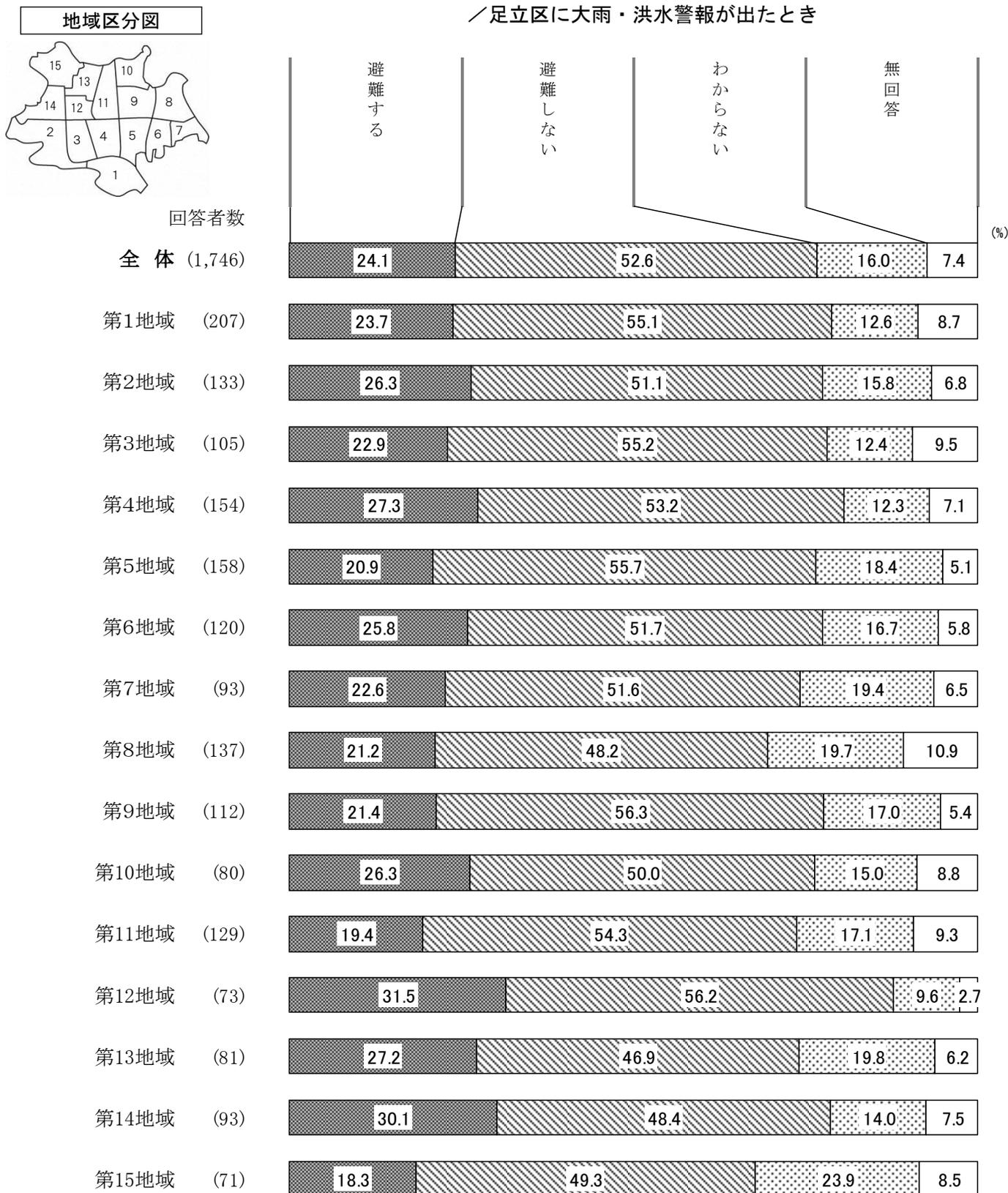
図3-5-2-② 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／近所の人が避難をしているのを見たとき



〈第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉〉

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、地域別で見ると、「避難しない」は第9地域や第12地域などで5割台半ばとやや高く、第13地域で4割台半ばと最も低いが、目立って大きな地域差はみられず、一方の「避難する」は第12地域と第14地域が3割台とやや高く、第11地域と第15地域で2割に届かず低めとなっている。

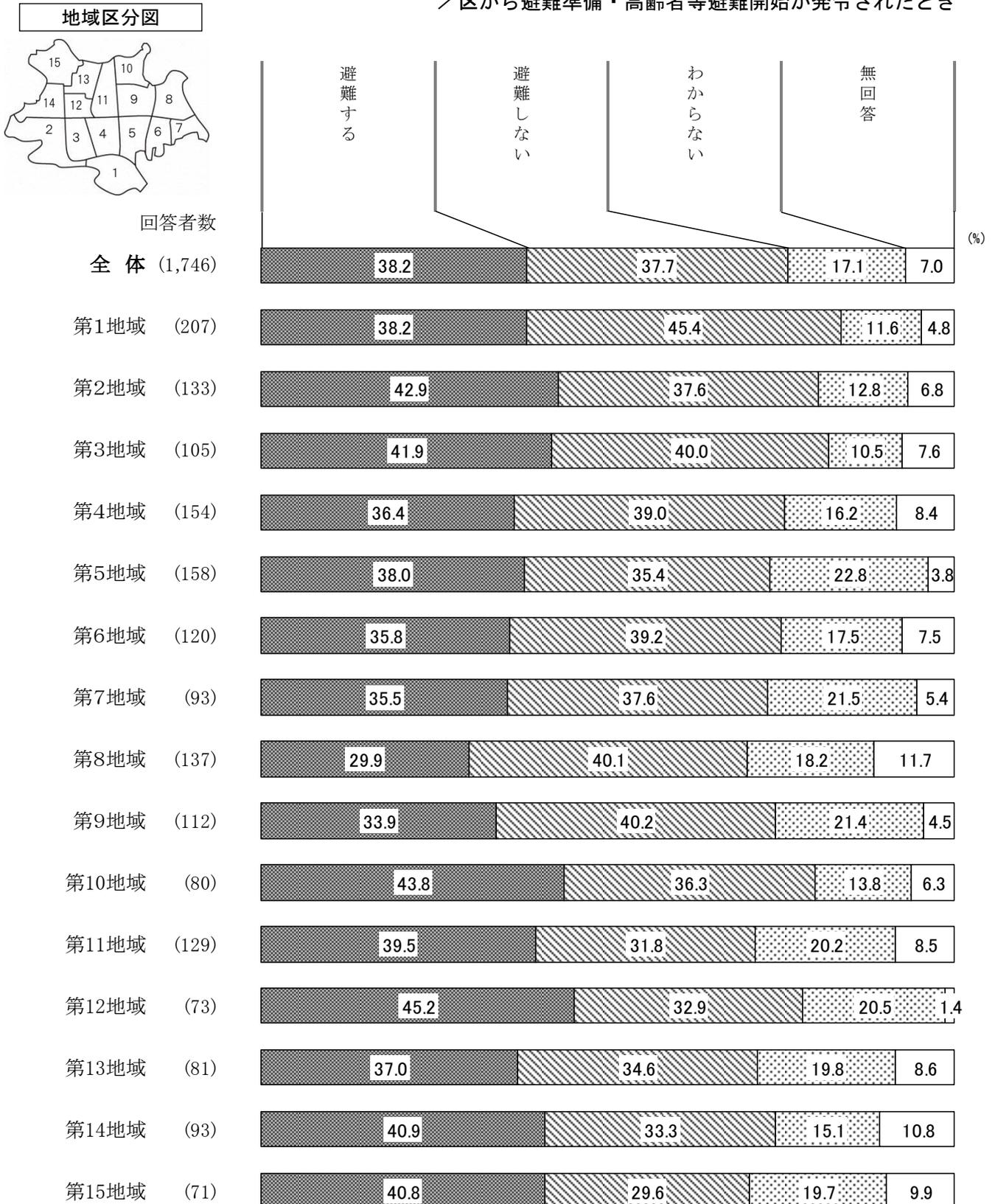
図3-5-2-③ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／足立区に大雨・洪水警報が出たとき



〈区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき〉について、地域別にみると、「避難する」は第12地域と第10地域で4割台半ばと高い一方で、第8地域で約3割と低くなっている。一方、「避難しない」は第1地域が4割台半ばと最も高く、第15地域が3割に届かず最も低い。

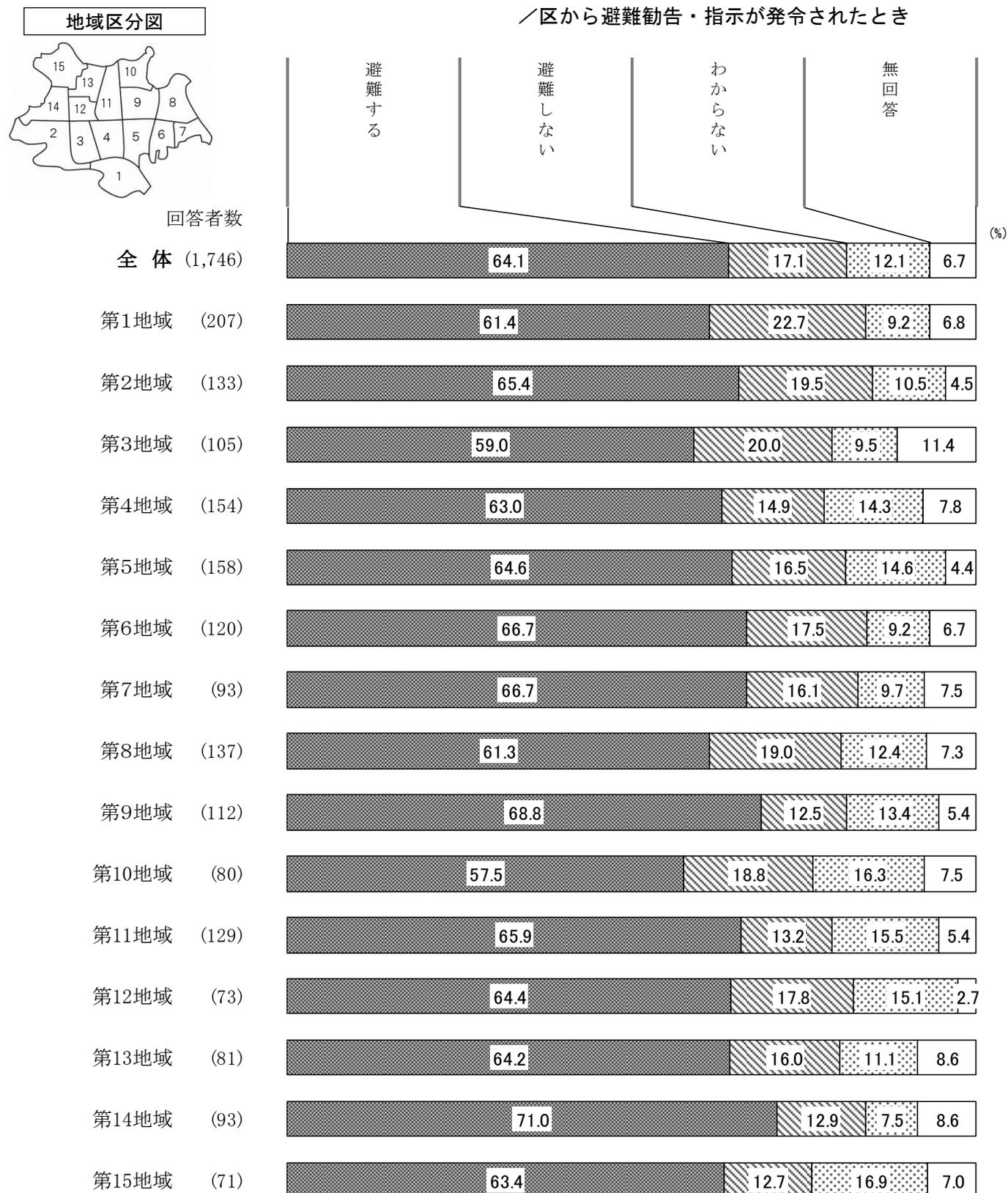
図3-5-2-④ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき



〈区から避難勧告・指示が発令された時〉について、地域別でみると、「避難する」は第14地域が7割強、第9地域が7割弱で高い一方、第10地域と第3地域では6割に届かず低めとなっている。なお「避難しない」は第1地域で2割強、第3地域で2割とやや高くなっている。

図3-5-2-⑤ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処



〈自宅付近が浸水したとき〉について、地域別でみると、「避難する」は第13地域や第9地域などで高めとなっており、第10地域で5割台半ばと低いのを除くと大きな地域差はみられない。なお「避難しない」は第10地域で3割弱と最も高くなっている。

図3-5-2-⑥ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

